

## 校長つうしん No. 2

Sapporo  
Odori

2016.5.17

鈴木恵一

風をうけて

### いのちの使い方



本校では「いのちの学習」を通じて、命の大切さを学ぶ機会があります。今回はやや意味合いは異なるものの、「いのち」をテーマにしつつ「使命」という言葉に置きかえて書きたいと思います。

「使命感」というと、ちょっと堅くて大げさな感じがしますが、「自分は何のために生きているのか」「誰かの役に立っているのだろうか?」と思いを悩むことはありませんか? 50 を過ぎたオッサンの私でさえ、ふと思うことがあります。

世の中には、突然のごとく命を絶ち切られてしまうような悲しい事件・事故が毎日のように起こっています。東日本大震災しかり、熊本県及び周辺地域の震災もしかり、突如として降りかかってくる不幸や困難のたびに、命の尊さと人間の尊厳について、いろいろ考えさせられます。授かった命を悔いなく使うために自分はどうな生き方をすべきなのか……

私は親から“恵一”と名付けられました。母が何度も流産を繰り返し、なかなか子宝に恵まれず、ようやく授かった子だから「たったひとつの恵み」という思いを込めて付けたそうです。母が亡くなる間に聞かされ泣けてきました。年齢 30 後半にして、ようやく自分の命の使い方を考えるようになりました。

誰かのためにとか、社会のために役立たなければいけないと考えると、どうしても、何か素晴らしい働きをしなければいけないと思いがちですが、人間一人ですることなんて知れています。何かの役に立つためには、様々な経験を積んでいくことも必要です。発展途上の途中段階にいるあなたには、現在のレベルに合った役立ち方をすればいいのです。大きな行動を起こさなくてもできることはたくさんあります。

友達が苦しんだり悲しんでいるとき、そっと寄り添ったり、「ドンマイ!」と言葉をかけることでもいいのです。何かしてもらったときは「ありがとう」と感謝の言葉を伝えるだけでもいいのです。自分が「ありがとう」と言ってもらったときのことを思い浮かべてください。「ああ、この人の役に立てたかな」と、ちょっと嬉しくなりますよね。ありがとうという言葉は、「あなたの小さな気遣いが私にとって大きな力になりましたよ」という立派なメッセージです。これでお互いに役立てるわけです。そんな小さな積み重ねで人生は成り立っています。これまで人生で受け取ってきたたくさんの「コト」「モノ」を思い出し、少しずつ誰かに返していくことができるといいですね。それも立派な「いのちの使い方」であり、あなたの崇高な「使命」になるのです。

# 見学旅行に行ってきます！

5月17日(火)より見学旅行(2泊3日)の引率者の一人として参加します。旅行のしおりに掲載した文章をここにも再掲しておきます。旅行中の出来事で報告できることがあれば、また掲載します。

## 旅の効用 ～ 意味ある学びの機会として ～

団長 鈴木 恵一

「人生」と書いて“たび(旅)”と読む詩や文章に出会うことがあります。言い得て妙だなと思います。旅にも人生にも苦労や失敗はつきものです。命や安全を脅かす危険な要素は除いて、旅の行程で起こったすべての出来事は貴重な学びの機会と理解すべきでしょう。苦労や失敗も後から振り返ってみれば、教訓となり、時に笑い話であったり、思い出になるはずです。



昔の人は言いました。「旅は道連れ、世は情け」

旅をするときに仲間がいると楽しくもあり頼もしくもある。転じて、人生において世の中を渡っていくには支え合う人がいて互いに思いやりを持つことが大切。今回の旅行でもこの心持ちを携えて行きましょう。旅には人生を豊かにする要素がたくさん詰まっています。私たちは日頃、さまざまな人々と出会い、いろいろな体験を積んでいます。

一方では、教科書や地図、小説、IT機器をなど通じて見知らぬ土地へひとつ飛びもできます。過去の偉人や架空の人物に出会い対話し、時には他人の人生をも体験し、未知の世界へと思いを馳せています。私たちはそういうことを通して自分の至らなさ、足りないところを見つけています。今の自分をとらえ直す機会を得ていると言ってもよいでしょう。実体験できる旅にもそんな要素がたくさん詰まっています。



今回は国内をほんのちょっと移動するだけなのに、未知の人、土地、異質な風景や歴史的建造物に遭遇することの連続です。同じ日本なのに、歴史・文化、風土の違いを感じることでしょ。そこに暮らす人々との出会いと対話には味わい深いものがあります。国際化の進展に伴い、異文化理解という言葉が一般化しましたが、現在はその延長線上にある「多文化共生」が注目を集めています。海外に目を向けることも大切ですが、自国にも多様な文化・伝統があることを感じ取ってください。文化・風習が異なり、使っている言葉(方言)も違う人々との触れ合いを通じて、肌で感じるものがたくさんあるはず。地域性の違い、そこに生きる人々の息吹や感性の違いを感じ取ってください。その違いを乗り越えて理解し合い、共に手を携えて生きるためには、どんな心が必要なのか。若いうちにそういうことを考えておくと、今後の長い人生で活かされるときが必ずきます。何を感じ、何を学び取るかはあなた次第です。その答えはあなた自身の中にあります。私には団長としての使命があります。それは、あなたが「楽しくて有意義な旅行でした」と言えることです。よく食べ、よく眠り、そして全員が病気もせず怪我もせず、事故もなく無事に帰ってくる。たくさんの思い出を心に詰め込んで帰ってきましょう!